

平成27年第13回教育委員会会議

平成27年11月4日

午前 9時30分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 ただいまから平成27年第13回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○松岡教育総務課長 人権・同和教育課長は、この後、予定がございまして、10時45分ごろから退席させていただきます。

それから、報告事項の幼稚園・保育園のあり方についての説明者といたしまして、後ほどこども未来部長、保育幼稚園課長、こども未来部政策推進監が出席させていただきます。よろしくお願ひします。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○加藤教育総務課主幹 本日、傍聴の方はいらっしゃいません。

2 会議録の承認

○葛西教育長 それでは、さきにお渡ししております平成27年第11回及び臨時会の会議録について、何かございますか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 よろしいでしょうか。それでは、承認といたします。

3 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、加藤委員と杉浦委員にお願いしたいと思いますが、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

4 議事

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

本日は、協議事項2件、報告事項3件ですが、協議事項の平成27年度教育環境課題調査検討事業について、報告事項の幼稚園・保育園のあり方については、市議会等の関係から、現時点では非公開にて協議したいと思います。

委員の皆さん、ご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、後ほど非公開にて協議いたします。

まずは、協議事項及び報告事項の非公開ではない案件から進めたいと思います。

(1) 協議

1 第3次四日市市学校教育ビジョンの策定について

○葛西教育長 それでは、協議事項の第3次四日市市学校教育ビジョンの策定について説明をお願いします。

○吉田教育監 お手元の第3次四日市市学校教育ビジョンの策定についての冊子と、第3次四日市市学校教育ビジョン(案)の冊子です。よろしいでしょうか。

それでは、第3次四日市市学校教育ビジョンの策定についての冊子で説明をさせていただきます。

1ページは、最終案策定に当たって提出された意見等についてです。まず、9月16日に行われました教育民生常任委員会の協議会での主な意見としましては、そこに挙げてあります5点のことについて意見が出されました。

この中の一番上にありますが、策定に向けて行った教育委員会での議論を知りたいということですので、今年度、第1回として4月8日、第2回として7月29日、第3回として8月19日の第2次学校教育ビジョンの総括から始まって、第3次学校ビジョンの素案の検討までの概要について、今後説明をさせていただきたいと思っております。

そのことが下の四角囲いの教育委員会会議における議論の経緯、ビジョンの各施策の進捗管理と点検・評価の概要とともに、最終案を11月定例会議会教育民生常任委員会で報告ということで進めさせていただきたいと思っております。

続いて(2)ですが、市内の小中学校の校長会からの主な意見ということで、7点書かれておりますが、このことについては、精査いたしまして意見の一部を反映し、11月の

小中学校校長会において、最終案とともに報告を進めていきたいと思っております。

2ページ、3ページは、パブリックコメントの概要です。9月17日から10月16日まで1カ月間、パブリックコメントを募集させていただきました。市民6名の方々から7件のご意見がございました。

提出された意見の趣旨と意見に対する教育委員会の考え方につきましては、後日ホームページにて公開をさせていただく予定でございます。

まず、1段目、本市教育の現状と課題とビジョンの進捗管理と評価のところについてのご意見がございましたので、それに対する考え方を示させていただくように考えているところでございます。

それから、2段目のご意見ですが、3の目指す子どもの姿というところで、今まで進めてきている「生きる力」、「共に生きる力」の表現についてのこと書かれてありますが、義務教育の学校における考え方と異なる部分もありますので、そのようなご回答をさせていただきたいと思っております。

3段目、これもビジョンの進捗管理と評価で、これは1段目に示された方とは意見が異なっておりまして、やはり全国と比較できるようなものについて用いるべきであるということ、それは今回採用させていただいているところです。

3ページ目、4番のICTを活用した教育の充実と発展ですが、現在いろんなところで話題になっておりますスマートフォンなどを介したさまざまな影響、これについても教育を進めてほしいというような意見で、もちろん今までも進めていますし、これからも進めていきたいと思っております。

5番目、家庭・地域の教育力の向上ですが、かつての公民館講座のことを取り上げられてご意見をいただきました。ここににつきましては、現在私どもも地域とともにある学校づくりという観点で、四日市版コミュニティスクールを中心に事業を進めておりますので、そのようなことをご回答させていただく予定です。

6番目、公害対策モデル都市としての環境教育の充実ですが、ご意見として、四日市公害と環境未来館を積極的に活用すべきである、そして、人権教育の一環としても位置づけるべきであると、校外学習の義務づけというようなことでありますが、今年度から小学校5年生に対して、バスの派遣等の予算を立てて、今現在取り組みを進めているところでございます。小学校5年生以外も非常に活発的に利用していただいたり、長期休業期間中に中学生が部活動の単位で活用を図ったりということで、このようなことは今後も重要だと

考えておりますので、充実を図っていきたいと思っております。

7番は、特にこれについてということではなく、一般的なところでご意見をいただきましたので、ビジョンを定めてやっていくことについてご理解を賜りたいというご返答でございます。

それから、4ページ、意見等に基づく修正点についてですが、主な変更点として、学校の状況で、案の8ページに教職員の年齢構成の分布図が記載されていましたが、これが男女別になっていたところを男女別にする必要はないのではないかということで、男女関係なくトータルの数で表を変更させていただいたところです。

それから、14ページ、これはケアレスミスですが、成果指標の確かな学力の定着の③の中学校の欄ですが、目標値が80になっておりましたので、これは小学校と見合うよう85%に変更させていただきました。

これ以外にも事務局でご意見等をもう一度見直させていただいて、字句の修正をさせていただいた項目もございますので、若干修正がかかっております。

それから、その下の3、第3次学校教育ビジョンの進捗管理と評価についてですが、図で示させていただいていますように、第3次教育ビジョンでは、これまでのものを精査して、まず子どもにつけたい力ということで、基本目標1から3について成果目標を設定し、その実施状況と効果を点検、評価して、次年度以降の取り組みの改善に反映をさせていただくという基本的な考え方で進めているところです。

各目標の各施策について具体的な取り組み指標を設定して、その進捗管理と評価をするということで、その結果については、教育委員会の点検・評価報告書及び学校教育白書で報告をしていきたいと考えているところです。

具体的に、5ページから7ページにかけての基本目標1から基本目標6までの取組指標(案)という形で示させていただきました。いずれにしましても、そこに示させていただいたように、PDCAサイクルを活用し、Cから白書、教育委員会点検・評価報告書などをもとに各施策の見直し、学校の取り組み改善につなげ、また充実を図っていくということで今考えているところです。

5ページから7ページにつきましては、それぞれの施策について、教育委員会事務局の中で各課、それから全体で協議して、そのように一応定めさせていただいて、案として提出をさせていただいたところでございます。

以上が概要の説明です。

○葛西教育長 4月8日、7月29日、8月19日と3回議論をいただき、その後、校長会との議論、パブリックコメント、そういったものでさらに検討してきた。そして、今日が4回目の協議ということになります。最終段階を迎えてきておりますが、その中で、議会としては、まずは教育委員会会議で議論されてきたことをきちっと整理して示してほしいということが一番大きなポイントになろうかなと思っています。

事務局としましては、11月議会の協議会でこの学校教育ビジョンを出していきますので、その場で今までの議論の経過を整理したものをお示しして、理解を得ていきたいと思っております。

特に、この場では、1ページから16ページまでの前半部分の四日市が進める教育の基本的な考え方について、集中して議論をしていただきました。特に、12ページの図、四日市の教育理念を実現するための基本的な考え方、ここについてしっかり議論いただき、そのことを中心として、子どもの姿、施策の考え方、それから四日市が大事にしていく問題解決能力、こういったものはどういうことなのか、あるいは総合計画、教育大綱、ビジョンとの相関関係の整理、それから確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、健康、体力の向上がいかに関係解決能力に結びつき、それが「生きる力」、「共に生きる力」につながっていくことが理解できるようにと、そういった大事なポイントについて随分ご議論いただき、今の形になってきたのかなと思っております。

それから、校長会からもこのような意見をいただき、意見を反映できるものについては反映させているということでございます。

パブリックコメントに対しては、意見に対する考え方ということで事務局の考え方がまとめてございます。

それから、意見等に基づく修正点、第3次学校教育ビジョンの進捗管理と評価については、このように考えていくということを示させていただいたということです。

それでは、まず、今日提案していただいたところで、このところはどうか、あるいはここはこう考えたほうがいいのかというところがございましたら、お出しいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○廣瀬指導課長 訂正がございました。

5ページの指標の案ですが、1—①改善を行った教員の数と書いてありますが、100%という指標ですので、教員の割合になるということが修正してございません。それから、指標の説明の語尾ですが、教員数であったり、1—②も学校数と書いてありますが、

ほかのところは、推進する、指定する、図となっておりますので、そういう語尾に修正したいと思いますので、よろしくをお願いします。

○加藤委員 この取り組み指標は第2次ビジョンではなかった部分ですね。白書の中でちらばっておったものをここへ追記したんですか。

○吉田教育監 第2次教育ビジョンは、重点目標1から8まであり、その中に、例えば重点目標①に問題解決能力の向上がありまして、そこには取り組み指標で問題解決能力向上に関する授業実践研修会の実施校数ということで、目標値が27年度全小中学校という形で示しはさせていただいていますが、今回は切り口を変えて、構成の見直しを図りましたので、まず、本冊子14ページの成果指標という形でより焦点化しました。それから、もっとわかりやすく表記してほしいというようなご意見がいろいろありました。これはこの教育委員会や校長会からもありますし、議会からもそういうご指摘もいただき、修正を加えてきました。客観的になかなか数値的に示されるものが難しい部分がありますので、そのことについては、8月の定例月議会の中でも議員へご回答させていただいたところではありますが、基本目標1、2、3について、最終的に下支えとする各施策を実施した成果として、14ページの成果指標を取り出してくるというような形にスタイルとして変えましたので、取り組み指標はまたこのような形で別の形で示させていただいて進めていきたいと思っているところです。

○加藤委員 そうなりますと、今日ご説明いただいた、例えば5ページの基本目標1、確かな学力の定着ということで、5項目にわたって指標がございますね。これと本冊の14ページの確かな学力の定着の①、②、③とは、どう連携していくんですか。

○吉田教育監 例えば、本冊の18ページをごらんいただきたいんですが、1から5の中で列記させていただいていますが、事務局としてこういうことを指標にしていくことで、確かな学力へ結びつけて、最終的に成果目標へ結びつけていくというような考え方でおります。

○加藤委員 18ページと今日ご説明いただいた5ページは連携がとれていると思うんですね。例えば、18ページの1―①から⑤までを十分達成できれば、本文の14ページの1番の確かな学力の定着の①、②、③の値は必ず達成できるはずだという見込みでやっていくのか、個々の5項目をどんどん努力いただいて評価を上げていくということと14ページの①、②、③のレベルが上がることはぱしっと合うわけではないんですかね。

○吉田教育監 私どもは、合わせていってそこへ結びつけたいということで、その下支え

となる各項目の説明のところからさらに重要である部分を引き出して、取り組み指標としておくことによって最終的にそこへきちっと結びつけていきたいと考えさせていただいています。

○加藤委員 まだこれについては検証もないし、必ずこの5項目を十分取り込むことによって、14ページの①、②、③がアップするはずだというのは弱いところがありますよね。言葉が合っていないので、評価の方法も違うわけですよね。その辺で整合をどうするのかなというのがあります。もっと言いますと、14ページの①、②、③のこの3つの成果指標を下支えするのが、18ページの1―①から⑤というふうにすっきり説明がついていくのかということがあるんですが。

○杉浦委員 本冊の14ページは、あくまで成果指標ということですよ。この後、学力向上のためのアクションプランというものをつくっていく中で、今回のこちらの取り組み指標についてはアクションプランの中に入っていきようなイメージでよろしいんですか。どうしていったらわかりやすくなるのかなとは思ったんですが、どうなのでしょう。

○吉田教育監 アクションプランというのは、あくまでもその中でさらに重点的に進めていく、あるいは予算をかけて整備していくという部分ではないかなと思って議論をお伺いしておったところです。

○杉浦委員 そうすると、アクションプランなので、おそらくそこに関しては取り組み指標的なものも出てくるんですよ。

○葛西教育長 そのあたりはどうですか。

○長谷川教育総務課副参事・政策グループリーダー 今ここに示させていただいた基本目標の施策とその指標につきましては、あくまでビジョンを中心とした仕組み、ビジョンの基本目標をそれぞれの施策が達成する目安となる向こう5年を見据えて、その指標で施策に対する進捗をきちっと管理させていただくための物差しといいますか、目印であると位置づけしてあります。

さらに、今、杉浦委員がおっしゃっていただいたアクションプランが今後策定されますので、目標値32年度とありますが、当然、毎年度どれだけという進捗は、各課がそれぞれ取り組み指標として、5年後さえ見ればいいというわけではなく、その年にここまでは達成しようという、そういう取り組みの中で行っていただく事業というように位置づけさせていただいております。

そして、アクションプランを今後策定させていただきますと、その指標値、目標値自体

のところさらに上げるとか広げる、さらに指標そのものもアクションプランによって一部見直されることもあり得るかなとは思っておりますが、今後アクションプランを定めさせていただく中で、こういう取り組み指標につきましては、多少変動、ブラッシュアップというところの影響が考えられますので、先ほど教育監の説明で、ビジョンから取り組み指標を外したというところに加えて、そのあたりについて、もう少し事務局でアクションプランや今後重点的に力を入れるところの指標の持ち方について、柔軟に対応できるような仕組みを今回考えさせていただいております。

以上です。

○葛西教育長 まず整理しておきたいのは、前回の第2次学校教育ビジョンはビジョンの中に取り組み指標も入れ込んでありました。今回は、子どもの姿として成果目標をつけるということで、1の確かな学力で3項目、豊かな人間性で4項目、健康・体力で3項目、全部で10項目の成果目標をつけた、これは子どもの姿です。ビジョンはこの成果目標で完結していると。このビジョンをいろんな取り組みで進捗させていく、その進捗を管理するために、今回この取り組み指標を別枠で挙げてきた。ただ、これは、教育施策評価委員の方々に、この進捗についてきちっと見ていただく、あるいは白書の中にもこれを出していく。ですから、ビジョンと白書、施策評価委員から出る報告書、そういうものをセットとして四日市の教育を見ていくという構えにはなります。

それから、アクションプランについては、特にこのビジョンの中でも教育大綱を実現させていくために大事な部分について取り上げて、このビジョンを牽引していく立場になるかと思えます。そのときに基本となるのは、ここに出されている取り組み指標、これらを参考にしながら、さらにブラッシュアップしたものにしていくのか、あるいはもう少し広げていくのかということは、今後事務局内で相関性を持たせながらやっていくという説明であったかなと思います。

○加藤委員 ほんとうにビジョン全体がすっきりして、やるべきことも明確になったという印象で、ほんとうにご努力いただいておりますと感謝したいと思います。さらにまた、今日ご説明いただいた5ページからの各施策の取り組み指標というのも出てきたことも非常にいいことだと思うんです。さらに私は、この取り組み指標から、ただ単に数字だけ追って行って、これは100%が95%で終わりましたとか80%で終わりましたというだけではなしに、各担当課で毎年1回、例えば現状と課題、あるいは今後一層取り組みを期待するべきことや、数字だけでなく言葉で書いた1枚物のペーパーがずっと32年まで重なっ

ていく、そのあたりで白書と連携しておれば、白書がそれにかわるものですと、こういうふうに我々は捉えておたらいいんですが、そこをより一層充実いただいて、要は子どもたちなり各学校がこのビジョンの実現に向けて取り組んでいただかないと、事務局で決まっておっても我々教育委員が大声を出しても意味がございませんので、ぜひそういう具体的な進捗管理を、それは白書があるということであれば、白書の視点をさらに進捗管理の部分も含めて充実をいただきたいと思っています。

それと、さらに一步、ビジョンの実現に向けて、やはり年に1回は必ず研修会を持っていただく、あるいは校長会への働きかけということで、各課長が校長会へ出かけたときに、〇〇課の進捗状況は今こうですというようなこともお願いする、校長にきちっと伝えていただく機会もどんどん増やしていただきたい。さらに、指導主事さんが学校へ出かけたときには必ずビジョンを踏まえて一言、二言はしゃべっていただくというようなことも、具体的なことなんですけど、やっぱりそれをやらないと、四日市挙げて、教育委員会挙げて、このビジョンの実現に努力をしていくという姿はできませんので、何とぞ焦点化され、修練されてくるような取り組みを期待したいと思っています。

○渡邊委員 取り組み指標はあくまで指標であって、何もそれで縛るということでは私はないと思うんですよ。だから、意識を同じ方向に向けていただく。特に学校現場の校長先生、そういうところからですね。やっぱりそういうような機運が出てくるというためには、要所要所のところでグリップをきかす、そういう部分を積み重ねるということをしていただければ、それほど取り組み指標で目標がこうなんだから32年に向けて数字を上げると、そこまでがちがちにやると、かえって学校現場が萎縮したり、うちは無理だからといって、そういう部分に対して学校で取り組みをしないというようなことになっては困るので、そういうグリップのきかせ方をやってもらえれば、それほど数字にこだわるというようなご指導はあまりしないほうがいいんじゃないかなと私は思います。

○吉田教育監 加藤委員と渡邊委員からも今ご指摘いただいた点については、こちらもそのスタンスでいきたいなとは思っているところです。特にこの取り組み指標につきましては、どちらかという教育委員会事務局が学校を支えるための予算づけをしながら充実を図っていくというものが主たるものであって、ただ、それに派生して学校としても取り組んでいただかないといけない部分はありますし、また、そのことについて後日、年度末に向けてのアンケート調査等も含めて進捗管理もしていけないといけないと思います。特に各課の進捗状況につきましては、白書が9月ごろにでき上がってきますので、校長会へも

その時点できちっと示していく必要があるなど。これは今までもそういうふうにながめてきたところでもありますし、それをより明確に今ご指摘いただいたんじゃないかなと思っております。

○加藤委員 冊子ができて、分厚いものをどんと学校にお送りいただいても、興味のあるところしかなかなか見られないので、それこそ1枚物のペーパーで小出ししながら、白書が出てからでも私はいいと思うんです。白書でも示してありますが、やはり今後の課題はこういうことです、あるいは学校にはこういうことをお願いしますということを担当課からきちっとお伝えしていくことが現場への意識づけにもなりますので。

○吉田教育監 そのように取り組みを心がけていくようにします。

○加藤委員 年間かかかってやっていただきたいと思います。教育監の所管事項はいつもビジョンから始まるというぐらいにやっていただくのがありがたいなと思いますね。

○葛西教育長 四日市市全ての学校がPDCAをきちっと回していく。まず、学校教育ビジョンが中心となって、常に自分たちの教育活動をこのビジョンの視点でしっかり見ていく。四日市全体のもの、それから自校のもの、やはりこれらを常に比べながら、どうすればいいかということを考えていく、そういう1つの指標にさせていただくということではないのかなと思います。

○加藤委員 現場から見ますと、確かにビジョンができて全部100%学校が同じエネルギーで取り組むということはまず無理だと思うんですね。でも、本校はこの中のこの部分は一定特出ししながら、ほかへの浸透を図っていくという学校が60校ほとんどだと思いますので、私の学校はこの部分でビジョンの進捗に大きく貢献しているという自負や自信を60校それぞれが持っていたら、これに幼稚園も入りますので80校園近くなると思うんですが、そういう意識でいくことが大事かなと思いますね。

○葛西教育長 そういうことは常々教育委員会でも、校長会や現場の先生方が集まった研修担当者会の場合でもこれを全て同じようにするのはなく、学校によって一番力を入れたところ、そこをしっかりとやって、そして軽重をつけながら、全体に波及させていくという考え方ですということは今までも繰り返し話してきましたし、これからもそういう考え方は持っていきたいと思っております。

○加藤委員 そうなると、研究指定を受けます4校、5校というところでも特出しして、これはまた1つの四日市の特徴になっていきますので、ほんとうにいいビジョンができて、いよいよスタートですからね。

○松崎委員 細かい部分で3つほど気がついたところで、パブリックコメントの概要のところ、意見に対する考え方を事務局で考えていただいて、先ほど教育監からも、スマートフォンが子どもたちに与える影響が大きいということで、既にモラル教育なども各学校で行われているところも多いし、能動的な学習も結構行われているところもあると思いますので、意見の中にこれから取り組んでまいりますというよりは、さらに取り組んでまいりますとか、実際、教育委員会として学校側として取り組んでいるところもあるというところがあれば、さらにと入れていただいたほうが、全然今までやっていなかったというふうにとられるとせつかなのという気がしまして、入れられるところは入れてもいいんじゃないかなと思いました。例えば家庭、地域の教育力の向上も、どこかでさらにと。全く行っていないものであれば取り組んでまいりますでいいと思いますが。

○加藤委員 大事ですよ。

○葛西教育長 そのとおりですね。

○松崎委員 それと、ビジョンの11ページの大綱と基本目標の関係の図で、今さらですが、校長先生からも意見として挙がっていたんですが、夢や志の実現に向け、自ら学び続けるという3番の大綱なんですが、このバックの色合いのかかり方が上の3つだけにかかっているんですけども、実際のところ、教育大綱を見ていると、地域とともにある学校づくりの中で、いろんな地域、コミュニティスクールの推進と絡めて、いろんな人との出会いや、地域の資源を生かした教育の推進、このあたりにもかかってくるんじゃないかなと思うんですが、そのあたり上手に学校教育力の向上にかかるかどうかはわからないんですけども、3の項目は結構どこにでも当てはまるものではないかなと。今さらですが、ここで区切ってしまうのはちょっとどうかなと感じましたので、ご意見を聞かせていただけたらなということと、もう一点、ビジョンの中でそれぞれ学校の取り組み例をたくさん挙げていただいている、これは今回入れていただいただけに、なるほどなということが非常に多かったんですが、中には、例えば22ページ、外国語活動・英語教育の充実の中で、3つ目の取り組み例の小中学校の英語教育連携推進、こういうものが上の2の小学校英語科の指導体制の確立の丸2つ目の下のあたり、2段とほとんど文章的にも変わらないので、推進という取り組み例は、一体何をやったのかなと。せつかく取り組み例として挙げるのであれば、もう少し具体的に、例えば英語教育連携推進で、後ろにもありますが、学び一体化で中学教師が実際に授業に入って教えているというのが、重複するんですけども、何か推進例として1つ挙げたほうが、3つ挙げるのであればよりわかりやすいのではない

かなと思います。あえて推進をつけるためだけに挙げるというのはどうかかなと思いました。

○葛西教育長 具体例ですからね。

○松崎委員 これから今後どんどん新しい取り組みが行われるのであれば、さらにちょっとずつ変えていければ、このままというよりは、新しい取り組み例をどんどん挙げていったほうがよりわかりやすいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○葛西教育長 まず、11ページの教育大綱の5つの理念と、それから学校教育ビジョンの基本目標とのかかわりの3の部分、これが区切っておりますが、このことについて、事務局、お願いします。

○長谷川教育総務課副参事・政策グループリーダー 11ページの表につきましてご説明いたします。

まずビジョンにつきまして、1番、2番、3番というのは、子どもたちにつけたい力、あくまで視点は子どもたちという視点でございます。それから、ビジョンの基本目標4、5、6は、子どもたちのつけたい力を支える周りの環境で、我々教育委員会を含めた子どもたちを取り巻く環境をいかに充実させるかというところで整理をさせていただいております。そういう中では、態度の涵養というのが子どもたちに係る部分でございますので、4番以降6番には枠を広げなかったという整理でございます。

以上です。

○葛西教育長 子どもたちの姿として1、2、3を出してある。その1、2、3全てを支え、そして、それらをさらにいいものにしていくということで、4、5、6という環境づくりの面を出してあるので、整理の仕方としては、子どもたちの姿、力ということで、そのような位置づけでしたということなんですね。

それから、ご指摘いただいたパブリックコメントの答えと、それから学校の取り組み、英語教育、これはそれぞれのところでご指摘いただいた意見を参考にして、よりわかりやすいものにしていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

私からも1つあるんですが、今日いただいた資料の4ページに第3次学校教育ビジョンの進捗管理と評価についてということで、図でPDCAが整理していただいております。それと、本冊の13ページにもPDCAの四日市学校評価システムとしてこのように入れていただいておりますけれども、目的が違うので表記の仕方が若干違いますが、せっかく

4ページの第3次学校教育ビジョンの進捗管理と評価について非常にわかりやすく整理してありますので、今後どういうところで使っていくのか、そのあたりの考えがあればお聞かせいただきたいなと思います。

○吉田教育監 今、教育長からご指摘いただいた点につきましては、4ページの表と、13ページの表というのが違うものではないので、よりわかりやすく進めていく中で、白書や学校の中でよりわかりやすいような図というようなことであれば、13ページ、14ページについての表記について、改善できれば変えていくということも視野に入れて検討を進めていきたいと思っております。

○加藤委員 この図はたしか1次からずっと引き継いでいるんですよ。13ページでPDCAサイクルというようなことですが、もうここはかなり定着してきておるので、教育長がおっしゃるように、より具体的な4ページの図をここへ入れ込んでも、あるいはこれと若干文章表現が変わってくるのかわかりませんが、変えることも可能かわかりませんね。

○吉田教育監 検討させていただきます。

○葛西教育長 議論してもらいたいと思います。

ほかにどうでしょうか。このビジョン全体にかかわりましてご意見いただければ、また事務局で整理していきたいと思いますが。

○加藤委員 この3ページの図は、今後、教育大綱の意見を見て差しかえということになるんでしょうね。今後、教育大綱と整合をとっていくんですね。

○葛西教育長 よろしいでしょうか。

それでは、第3次学校教育ビジョンについては、今回おおむね良というふうなことで、さらにきちっと精査をしていただいて、完成したものを次回になるかどうかはわかりませんが、出していただくというところで進めていただきたいと思います。

2つ目の平成27年度教育環境課題調査検討事業については、後ほど協議をいたします。

(2) 報告

1 平成27年度教育委員会の点検及び評価について

2 全国学力・学習状況調査結果の分析について

○葛西教育長 それでは、続いて、報告事項に入ります。

本日の報告事項は、平成27年度教育委員会の点検及び評価について、全国学力・学習状況調査結果の分析について、それから幼稚園・保育園のあり方について、これは非公開

でございますが、この3件です。

まずは、平成27年度教育委員会の点検及び評価についての説明をお願いします。

○松岡教育総務課長 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に学識経験者の知見の活用を図るための実施計画という資料を用意いただきたいと思います。

教育委員会の点検及び評価につきましては、教育に関する事務の管理及び執行の状況及び点検等を実施するに当たりまして、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図るということで、施策の改善に資するということを目的としています。

2をごらんになっていただきますと、四日市市教育施策評価委員、今年度2名の方に入れかわっていただきまして、27年度委員としましては、長谷川時三さん、岩崎祐子さん、鈴木達哉さん、大日方真史さん、この4名の方で点検、評価に当たっていただくということでございます。役割としましては、教育施策全体について、抽出した学校訪問、あるいは学校教育白書なりを参照することによりまして、より客観的な立場から専門的な提言、助言をいただくということで進めてまいりたいと考えてございます。

それから、教育委員会の方針、施策が学校現場にどのように浸透して生かされているかということを検証してまいりたいと考えてございまして、この報告書につきましては、各委員が教育委員会に提出をいただいて、役割を果たしていただくというふうに進めてまいりたいと思っております。

資料をめくっていただきまして裏面でございますが、平成27年度の実施計画（案）でございまして、4回の評価委員会を計画しております。

第1回、第2回につきましては学校視察、第3回、第4回は教育委員の皆様方との懇談、協議ということで進めさせていただきたいという計画でございまして、第1回の学校視察でございますが、11月12日に三重北小学校の訪問をさせていただくということで準備を進めてございます。それから、1月28日に、富田小の訪問を計画しております。

本年度の評価項目につきましては、従前ご議論いただきまして、(2)に書いてございますが、①の問題解決能力の向上、授業づくりガイドブックを活用した実践とその効果について、それから②の健康や体力を育む教育の充実、体力の向上、こういう視点で、4名の委員さんに学校訪問等から評価をいただくというところで、今年度進めてまいりたいというところでございます。

報告は以上でございます。

○葛西教育長 これにつきまして、特に重点評価項目については、前回、何を中心に見て

いただくかということで議論をさせていただいたところです。そして、やはり問題解決能力の向上は引き続き見ていただきたいということで、これを1番に挙げ、もう一つは、体力の向上ということで、この2つをしっかりと今年度から来年度にかけて見ていただくといいということでしょうか。

では、この報告を終わります。次の報告をお願いします。

○廣瀬指導課長 事前に黄色い冊子2冊をお届けしております。1つは、毎年取り組んでおります学力・学習状況調査の平成27年度の分析をまとめたもので、もう一冊は、成果の見える学校の取り組みを市内全教職員に紹介する冊子として作成し、配付しようと考えています。

まず、平成27年度全国学力・学習状況調査の分析について、1枚目をめくっていただくと、目次と平成19年度から27年度までの本市の小中学校の正答率の一覧を載せてございます。平成24年度に小学校6年生の子どもが、今回、平成27年度の中3に上がっているということで、後ほどご報告させていただくところもございます。

続きまして、2ページから7ページまでが小学校の調査結果でございます。2ページを見ていただき、特徴的なところを少し説明させていただきます。

2ページの下、(2)本市の解答状況、小学校国語とございますが、設問の概要、出題の趣旨、四日市の状況、領域、問題形式とあります。領域、問題形式の四角の中で網かけになっているところが、ここで取り扱われている内容ということで示されています。

例えば、国語Aの1、二の2、1の二の3、漢字を書くのところ、鳥の巣の「す」や、病院に行くの「びょう」という字の正答率が今回低かったというちょっと残念な結果がございまして、四日市の状況の欄には、黒三角下向きで、上の青囲みの中で参照いただくと、正答率が全国平均よりも5ポイント低いという結果になっています。ほかにも、国語の5の二、コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く、こういったところについても正答率が低くなっています。

上の表の領域別のところですが、国語Aについては、小学校は全般的に、特に読むことについて、それから伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、つまり、漢字や言葉の決まりであるといった領域についてあまり芳しくない状況がございまして。

3ページは算数ですが、算数は全体的にもう一歩というようなところがございます。特徴的なところは飛ばさせていただきます。

4ページは理科の評価になっています。4ページの下、本市の解答状況で特徴的なもの

を示させていただきますが、3の(4)と(5)、メスシリンダーの名称とその使い方というところが大変弱かったです。それから、水が水蒸気になる現象について、その名称を書くところで、蒸発と答えるのですが、その正答率が低かったです。いずれも知識に関する問題で正答率が低いという結果が出ました。

5ページからは、度数分布表をつけさせていただいております。

5ページの度数分布表は国語のAとBですが、国語Bはほとんど全国とその傾向は変わらないように見て取れると思います。特にAは上位層がやや薄く、少し下位層に厚くなっている部分があるように思います。

6ページは算数の度数分布表です。下が算数Bの表で、少し中上位層でやや薄く、下位層が少し厚くなっているような状況が見て取れると思います。

7ページの理科においても、全国に比べやはり中上位層が薄く、下位層が少し厚いところが見て取れると思います。

8ページからは中学校です。全体的に国語Aは全国平均と同じ、Bは若干わずかに足らなかったところがございますが、国語Aの下の本市の解答状況、国語Aの9の三のエ、縁の下の力持ちという語句の縁というのを選ぶんですが、縁の下の力持ちということわざにあまりなじみがなかったようで、この正答率が低くなっています。国語については、やや足りないですが、全国と同等の状況です。

9ページは数学です。ほとんど三角印がないということで数学のA、Bともに高い状況となっております。

10ページが理科です。(1)学習指導要領の領域別のところで生物的領域が少し足りませんが、これについては、本市の解答状況の一番下、8の(1)背骨のある動物の名称を答えるところで、脊椎動物と答えるところが少し全国とかなり低くなったものですから、全体に生物領域のところを下げてしまったところはあるんですが、ほとんどその他の領域については全国を上回っています。理科としては主として知識に関する問題と主として活用に関する問題も出題の中で少し分類されているんですが、そういった解答がうまくできなかったところもあって、少し知識に関する問題が全国より割り込んでいます。

11ページからは度数分布表ですが、中学校は縦軸が高くなっているので少し見にくいので申しわけございませんが、国語A問題、B問題とも全国とほとんど傾向が変わらない状況でございます。

12ページは数学ですが、数学はAもBも全国と比べて少し上位層が厚くなっているよ

うなところが見受けられます。

13ページの理科についても、ほとんど全国と状況が変わらないところであると思っています。

14ページ、15ページは、こういった状況を確認した上での今後の取り組みですが、内容については昨年度とほとんど変えておりません。今後も平成25年1月から取り組んでいる1番の全市的な4つの取り組みを継続することがまずは大事であると考えて、今後も進めていきたいと思っています。

ただ、15ページの一番下、三重県教育委員会との連携という欄がございますが、1行増えただけですが、昨年度からみえスタディチェックが始まっておるんですが、今年からは本格的に参加させていただいて、自己採点や分析を各校で取り組むことで自校の弱みや強みを把握して、授業改善に反映させていただこうと考えています。

また、加えて、三重県教育委員会のホームページ上に過去の問題をワークシート化したもの等もかなり充実して掲載されておりますので、それを授業で活用したり、または身についた力を単元の終わりに確かめる問題として活用できるように、11月中に例示をさせていただいて、改善の取り組みの資料としていただきたいと思います。

全市的な4つの取り組みの充実の度合いですが、こちらについては、36ページに学力向上に関する全市的な取り組み状況という形で取りまとめをさせていただいております。全国学力・学習状況調査の学校質問紙の問いがこれに重なる部分がございます。37ページにその質問紙の質問項目が載っております。それに基づいて36ページの下の方のレーダーチャートをごらんいただくと、本市の4つの取り組みに関連する学校質問紙の設問から平成26年度以降五角形が上回るというような形でしっかり取り組まれている状況がわかるかなと思っています。26年が紫のような青線、27年が黒線です。本年度27年の全国の値が赤線となっておりますので、紫と黒が小学校、中学校とも赤線の外側に引かれていることから、この4つの取り組みについてはかなり定着してきたということがわかると思います。

あわせて37ページですが、学びの一体化に関連する設問を、学校質問紙の中から拾っていきますと、平成27年度、今回の調査で初めて小中とも、近隣の小中学校と連携を行ったかという問いに対して100%達成されました。こういったことから、四日市市の学力向上の取り組みについては小中学校で、全市的に共通理解が図られてきたことが考えられますので、今後もう少し伸びも期待できるのかなと思っています。

38ページからは、資料の中でたくさんのグラフを示してまいりましたが、その中で特徴的なものを整理して列挙したものでございます。

38ページ、児童質問紙から主に見えてくるものとして、項目だけ拾いますと、一番上の学習時間、テレビ、ビデオ等の視聴、携帯電話、スマートフォンの使用時間、こういったものについては、今後も家庭と連携するために働きかけが必要である、こういったことについての改善を図っていきたいと思っています。

11月上旬号の広報よっかいちも活用させていただいて、学力の状況と家庭の生活習慣の改善についての啓発をかけております。

それから、昨年度も発行させていただきましたが、別途、保護者啓発用のリーフレットも広報とは別に作成して、配布をしていきたいと思っています。

38ページ、地域、社会への関心という質問がかなり全国と比べて低いところがございます。こちらについては、四日市版コミュニティスクールの指定校においては、この設問について高いというような傾向がございます。学校教育活動の中で子どもたちが地域の方々とかかわる機会や地域に触れる機会を持っている、そんな中で顔見知りになることで自然に地域活動に積極的に参加する子どもが増えているというような傾向が高まっておりますので、今後も四日市版コミュニティスクールの拡大や充実を図っていきたいと考えています。

39ページは、学校質問紙から見えてくる主なところですが、一番上の学習意欲ですが、授業中の私語が少なく、落ちついていると回答する学校の割合が小学校は大変低いということで、当てはまると回答された学校、全国が約39%ですが、小学校は約21%にとどまっているということです。児童質問紙の学校の決まりを守っていますかという設問に対しても、当てはまると回答した児童生徒が全国より10ポイント以上低い学校も数校ございます。そういった学校については、現在、指導課2系の指導主事が学校を訪問して、授業規律であるといった部分について指導を行っております。

39ページの2段目、授業の目当ての提示と振り返りの活動の徹底でございますが、目標の提示についてはかなり増加の傾向にあります。小学校では、そこに示させていただいたとおり、当てはまると答えた割合が全国の39%に対してまだ約21%と低い傾向がございます。振り返りの活動についてはかなり高い割合で定着をしてきたことがわかります。ただ、35ページに、学校質問紙と子どもの児童生徒質問紙とのギャップを示したものがございます。学校は目当て、振り返りをやっているんですが、子どもたちに落ちてい

ないという部分を示してございます。このあたりについては、形としては目当て、振り返りの学習活動というのはかなり浸透してきているんですが、ほんとうに子どもがこの授業で何を学習しているのか、何を学習すればいいのか、それから、この授業で何を学べたのかということがしっかり自覚できるような授業改善を今後一層進める必要があると考えています。

続いて、50ページですが、これらの取り組みについて、学習方法に関する指導の充実、発展的な学習や実生活における事象との関連を図った授業の充実、さまざまな文章を読む習慣をつける授業の充実、全教科、領域などでの言語活動の充実というところが課題を整理するところから出てきますが、こういった授業改善にかかわるものについては、ひみつ発見という冊子、タイトルはちょっと考え直すところもございますし、内容についてももう一度学校に再確認し、整理をしてから発行となるんですが、先ほどご紹介したような内容、例えばノートのとり方であったり、発展的な学習のトライ、さまざまな文章を読むなどの言語活動の充実、いろいろな実践について、全市でイメージの共有ができるように、できるだけ具体的な事例としてわかるように成果の見える学校の取り組みを紹介する冊子を作りました。これについては、日ごろの指導主事の要請訪問で見に行った雰囲気の良い学校や、いい授業であったり、あわせて学力調査の結果であったり、児童生徒質問紙の結果からなかなか充実したものが読み取れる学校を抽出し、各教科1校ずつ抽出して、実際に授業も参観をさせていただいた上で担当教師のインタビューを行って取りまとめたものがございます。全教職員に配付して、よりよい授業改善の資料にさせていただこうと思っています。

分析冊子ですが、もう一度点検した上で、できるだけ早い時期にホームページ上に掲載する予定でございます。

以上でございます。

○葛西教育長 どうもありがとうございました。

傾向としては、昨年度と小学校、中学校の学力の状況は変わっていない。ただ、学校の取り組み等につきましては着実に浸透してきているという一面はうかがえたのかと思います。

○渡邊委員 取り組みが学校レベルで非常に意識的に高まってきたと。レーダーチャートの中でも、明らかにこれだけ顕著な伸びが示されるというのは、大変浸透し、かなり学校現場も頑張ってきていられるということのあらわれだということで、大変ご苦勞の成果が

出てきたなという気がいたします。

その中で気になるのが35ページの質問、意識の差です。学校ではやっておるつもりなんだけど、生徒はそうではない。児童の質問のところでは差が出る。これはやはりなぜなんだろうかと気になります。これはやはり前からの傾向なんでしょうか。相変わらずこういうところはあまり改善されてないということなんでしょうか。教えていただきたいです。

○廣瀬指導課長 35ページで、100%になったり、96%になっているのは、肯定的回答、当てはまるとおおむね当てはまるを足した数字というところもございます。39ページを見ていただくと、小学校では当てはまると、確かであると答えたところは21%、中学校は54%ということになっていますので、しっかりと目当てを示すことができているかというところについては、やはりまだ曖昧なところがあるのかなと。そうすると、当然子どもは、今日何を勉強するのかよくわからなかった、教科書はやったけど、今日の重点の狙いは何だったんだということは伝わっていない、そういうことが影響されているのではないかなと。形はやっているけど子どもに伝わっていない、これは授業改善の研究としてまだ課題があるのかなとは思っています。

○葛西教育長 渡邊委員がご指摘いただいたことは、例えば46ページの国語の指導法の問4、漢字、語句など基礎的、基本的な事項を定着させる授業を行いましたかとあります。小学校では、全国の53がよく行った、それからどちらかといえば行ったというのを合わせて98%です。四日市は、よく行ったが63で、どちらかといえば行ったが37で、100%なんですよね。

ところが、学調の漢字のテストで、「す」と「びょういん」、それから言葉のきまり、これが5ポイント以上できていなかったという実態もあります。ですから、徹底してやる、そして、できないところを繰り返しできるようにするという、そういうやり方がやはりまだいま一つ全てにわたってできていないのかなという思いを持ちました。

○松崎委員 母親として、先ほどの意見もそうなんですが、漢字のことで子どもにちょっと聞きましたら、クラスによって熱の入れようが違うということで、クラスによってまとめのテストを1回、例えば20点、30点とった子が80点までぐらいとれるようにしていくようにするクラスと、そのままにしてしまうクラス、100点までとるまで何回もやるクラスと、クラスによって全然違うというふうに言っていました。やはりその辺の徹底ということが、親にも言われていないので、うちの子がどれだけできているのかとか、家でできない漢字を何度も書かせてきてほしいといったことを言われないので、多分親御さ

んも把握されていないと思います。その辺で、もう少し家庭との連携を、漢字1つとっても、もっともっと詰めていただけたらなど。例えば、今日持ち帰ったテストの復習を家でもう一度させてくださいとか、やっていただけたらなどと思います。

それと、小学生の上のレベルの人の数が全国的に見ると低いというなお話があったんですが、どうしても平等主義という形ですので、例えば漢字にしても、書けた子は終わりにして、後は自由にお絵描きしていいよということもあるんですね。やっぱりできる子にとって、もっとやりたいという気持ちを大事にしてやりたいなとも思いますので、できたらどの学校でももう一つの段階や、もしくは先生の準備ができなければ、今までのおさらいのつもりで漢字テストをもう一回やってみるとか、プリント1枚、2枚でも結構なので用意していく体制をまずつくっていただけると、レベルの高い子の力をちょっと上げるのは先生の力をそれほどかけていただく必要はないと思いますので、それで少しでも学調の点が上がればと思いました。

○廣瀬指導課長 クラスによって、漢字の取り組みが違うということについては、同じように掃除であったり、給食の取り組みのやり方が違ったりするところも同じかなと思います。今、指導課2係が学年で共通した理解で指導を進めようということも回っていますので、そういったところもあわせて指導していきたいと思っています。

それから、できる子はもっとやりたいということについては、県のワークシートがどんどん出ておまして、例えば早く漢字テストが終わった子は、読書をしたり、自由にお絵描きをするんじゃないかと、そういったちょっとレベルの高い問題を簡単に入手して提示できますので、そういう使い方についても11月の校長会までに取りまとめて伝えることができればよいかと考えています。

○葛西教育長 今ご指摘いただいたことは実に大事なことで、やはりそこまできちっと学校、学年で共通理解して徹底して行っていくということが子どもの着実な学力に結びついていく1つの方法だと思いますので、これはしっかりとやっていきたいなと思っています。

○杉浦委員 全体を通してですが、分析の14ページ、今後の取り組みの重点ということでもとめられていて、学校においてということと教育委員会事務局においてとなっていますが、今後の取り組みの重点という言葉から受け取るのが、この分析結果を非常に細かく分析をした結果、見えてきた傾向や改善しなければいけない課題に対して、今後どのようにそれぞれの現場で取り組んでいくのかということの重点と捉えるというふうに思います。そういう意味で今回、この分析のクロスまで出てきたものが初めてだと思うんですが、綿

密にそういった分析と課題の把握、洗い出し、それに伴っているいろんなビジョンとの突き合わせもあると思うんですが、それを踏まえてどのように取り組んでいかなければいけないのかの課題というのがきちんと全て落とし込まれているのかなと少し疑問に思いました。

見せていただいていたときに、本年度だけ見えてきた傾向なのか、あるいはこの調査も数年継続してやってきて、明らかにこういう生活態度はこういう学力になるんだということが断言してもおかしくないであろう結果も見えてきていると思うんですけども、そういったところを整理した上での今後の取り組みというふうにはちょっと読み取りにくいのかなというところが危惧されたというのがあります。

というのも、載せてある場所が非常に前に来ているのは分析結果を生かしてあるもののかなというような解釈をしました。

四日市市の広報でも配信されているものに関しては私も拝見しましたが、ホームページはどうなんでしょうか。

○葛西教育長 まだです。

○杉浦委員 これは教育にかかわることではなく、見る側として見にくいなと思ったのが、例えば表現なんですが、主体に対する表現もいろんな表現が非常に混在していて、例えば本市、四日市、四日市市、教育委員会であったり、4ページ以降、それぞれのグラフ等の分析が、送られてきた画像を取り込んでいるものなのか、あるいはこちらでも一部修正ができるような状態で送られてきているのかによって違うんですが、この中で貴教育委員会となっているところが、明らかに四日市市が配信する文書としては望ましい表現ではないと思うので、もし変えられるのであれば、三重県と書くのであれば四日市市なのかなと思ったので、全体的に主体の表現の統一をしていただいたほうがいいなというのもありました。

1 ページのところ、非常に見なれてきた推移ではあるんですが、この推移で一番皆さんが関心を持つのは、問題の難易度も違うので、時系列で点数の増えた減ったではなくて、推移で本市が三重県や全国に比べて今年はよかったのか悪かったのかというところを見るための表だと思いますので、この表を生かしつつ、可能であれば、4ページ以降にもあるようなヒストグラムでも結構ですし、折れ線グラフでも結構ですので、ぱっと見たときに四日市の状況がどうだったのかということが見えるような、可視化できるようなページが1枚あるとわかりやすいのではないかなと思いました。

○葛西教育長 まず、重点の記述ですが、これは今までやってきたことの取り組みが整理

されていますが、今、杉浦委員から指摘がありましたところ、いかがですか。

○廣瀬指導課長 課題自体は大きく傾向は変わってございませんので、これまで進めてきたことを継続していくというところでございます。

中には、例えば30ページ、協同的達成感の経験という設問が新しく入ったりするものもありますが、他者と協力して問題を解決したり、何かつくり上げたりする体験を設定していくことは学力の向上にも有効であるというような傾向は少し出ているのかと思いますが、あまり全体として傾向は変わっておりませんので、そういったものも全部整理した上での重点の取りまとめであります。

ただ、例えば38ページにも課題の整理があつたり、50ページにも具体的な取り組みがあつたりしますので、もう少し表現の仕方は工夫したほうがいいのかなと感じました。

○杉浦委員 今回の結果で見えてきたこと、あるいは分析をされた結果見えてきたこと、傾向と課題というのをどこかでまとめていただいた上での取り組みの重点というものを示されたほうが、今までやってきたことも方向性としては間違えていなかったというようなアピールとともに有効にできるのではないかなと感じました。お願いします。

○葛西教育長 傾向と課題を整理して、取り組みの重点という流れにしていく、そして、今後こういう取り組みを重点的に行っていくということがよくわかるような構成で、もう一度整理をお願いしたいと思います。

○加藤委員 改めて1ページの数値を眺めておるんですが、平成19年度にこの調査がスタートして、その時点で見ると、小学校も十分満足ではないですけど、そんなに全国と大きな開きもないですね。中学校の19年度を見ると、全てに大きく上回っている部分が4領域あるんですね。

それから5年、6年、7年後と見てくると、中学校は何とか全国レベルを維持しているものの、まだ小学校は届かないところがたくさんあると。これは一体何だろうなということを説明を聞きながら考えておったんです。

だから、私もこれは自信があるわけではないんですが、平成19年度全国的に調査がスタートして、他府県なり三重県なり四日市以外の学校の努力というのでおそらく平均点は上がったんでしょう。でも、四日市がそれに付随して上がったのかというところではないですね。四日市の努力が不足しているとするのか、やはり学力状況調査内容そのものの問題で、いわゆる四日市が今まで大事にしてきた、あるいは今も大事にしている5つのプロセスを重視した授業構成で身につけていくであろう学力と、確かに病気の「びょう」

が書けないからここでぐっと下がるという結果はあるんですけど、何を大事に今後の授業をきちっとしていくかというのを改めて考えていくのがいいのかなと。

指導課の場合は、CRTの検査もやってもらっていますよね。あれは一定の標準テストとして全国的にも認定されているテストですし、この学力・学習状況調査というのはまだそこまでの標準化というのはないですし、平均点もこれほどばらつきがあります。全国平均では20点以上違うときもありますので、ほんとうにどこまで信頼していいのかわかりませんし。

だから、改めて今、指導課長や指導課なりに、四日市が求める学力観というのを我々も聞かせてもらいながら、いろんなご意見も申し上げておるんですけど、もう一度やっぱり確固たる四日市の進め方がいいんだというようなことで、改めて認識する、どこかでそういうことも必要なのかな。ただ点数、点数と言っていくとどうなっていくんだろうと。何か考えていかないといけないのではないかなというのを思いました。

だから、今までやってきたことが19年度までは四日市は正しかったんですよ。ぱっと、そういうテストを受けても、四日市の子はそれなりに結果を出していたんですよ。それが20年度以降はずっと過去問も出ているようですし、いわゆるテスト問題対策をすれば必ず点数は上がるという結果もありますので、三重県がやっている学力向上というのほんとうにいいのか、テストをどんどんやったら確かに点数はとれるのはいいんですけど、それがほんとうに将来、社会人となって生きて働く力にどこまでなっていくのかというのは、じっくりと考えたいし、ちょうど考える時期に来ているのかなと思います。私、懇談会の座長もさせていただいて、そういうところでも学力については議論もしてもらったところです。

皆さん、どうですか。点数だけ見ても、どう分析したらいいのかなと。

○葛西教育長 小学校の平成19年は、国語のA、国語のB、これは全国と同じです。ただ、算数はやはり知識も活用も全国より若干下になっています。小学校は1度全国より随分落ちたんですけども、少しずつ数値的には上げてきて、今年は全国に去年よりも、わずかですけども、近づいているという状況になってきています。そういう特徴があります。

それから、もう一つは、平成24年度に小学校6年生だった子どもが27年度に中学生でテストを再度受けました。

○加藤委員 そういう見方もありますよね。

○葛西教育長 24年度の6年生の4月に受けて、27年度の中3の4月に受けた、この結果を見てみますと、点数として、6年生から中2の間に子どもたちの学力が伸びてきたということは1つ言えるのかなと。ですから、小学校6年から中学校2年、このあたりの子どもたちの学習に対する意欲、姿勢、態度というようなものがしっかり定まってきた、そういうことは言えるのかなと思います。

○杉浦委員 その背景に何があるのかというのが一番知りたいところです。

○加藤委員 そうなんですよね。答えはなかなか見つかりませんが。

○松崎委員 ちょうどうちの子が27年度に中3でして、24年度の小学校のテストを受けたんですけども、やはりこの3年間の中学というものすごい環境の変化というのは親が見ていても感じますので、小学生の間に伸び伸びと勉強以外のことをさせてもらったというのはあるんですが、中学に入ってかなり絞られてきたというのは非常に感じますね。なので、中学の先生にはそういう意味で努力いただいたという気はいたします。それはもう結果としてあらわれているなという感じはします。

○加藤委員 だから、びしばし仕込まれることを小学校からやるのがいいのかどうかもありますね。何が学力という大きな概念ですけど、やっぱり小学校のときは四日市では多少好きなことをさせておこうと。幼稚園に至っては、遊び重視としようとしておいて、中学校になってからびしばしやりますというのは、このやり方がやっぱり四日市方式でいいのか。

○松崎委員 ただ、余談になってしまいますけど、苦労はしたみたいです。小学校のときに例えば社会にしても歴史や地理を習っているはずなんですけれども、きちっとはしてなくても許されているような状況だったので、中学に入ってまた新たに同じようなところを繰り返して、さらに深くやるときに、もう一度基本からやらなければならなかったんで、興味のない子たちは非常に苦労したというふうには言っていました。

○杉浦委員 また、今回も示されているいろんな生活面や自己肯定感の相関というような結果から見ても、学力が高まってくると、そういったぜひつけたいと思うような数値が上がってきている。学力、勉強以外というところも考えると、いろんなところで上がるのであれば、やはり上がっている間に何があるのかというところをやはり明確にして、それがもっと低年齢化していくともっとより肯定感が高まるのかなというようなこともあるので、非常に興味はありますね。

○加藤委員 それと、やっぱり二極化の問題もこれはずっとついて回りますよね。問題を

見た途端にしないということで寝る子がおるんですよ。先生方のご努力でそういう数はだんだん減ってきたと思いますけど。だから、全く興味を示せない子と一定頑張ろうと最後まで50分頑張ってくれる子どもとの差というのはありますし。

○葛西教育長 全国と比べてみますと、基本的な生活習慣について、四日市はほぼ全国と同じです。それから、自尊感情、自己肯定感の数字も全国と同じです。規範意識についても同じです。以前、規範意識は、四日市の中学校はずっと上回っていたんですけども、今、全国の中学校がこの規範意識にかなり力を入れてきたということで、これは並んでいます。だから、そのようなところは全国と同じです。

ただ、家庭でのコミュニケーション、社会に対する興味、関心、それから家庭学習、そして携帯、スマホ、これは全国に比べていま一つ物足りないというような結果が出ております。

ということから考えると、やはりもっと家庭と連携した教育、これが1つポイントになっていくのかなというふうなことを今回の数字で改めて思いました。

それと、先週の土曜日にある学校の学習発表会に行ってきました。それを見て感じたことは、一人一人にきちっと出番や役割をつくって、存在感を子どもたちに感じさせている。全体と協調していく、学校、学級の帰属意識、こういうものもしっかりつくっているという取り組み。それから、高学年になってくると、さあ、やろうということに真剣に取り組んでいる姿勢というのがやっぱりしっかりと見て取れました。そういった小学校における学校での姿勢が中学校へ行って生活への姿勢、学習への姿勢へ結びついていくのかなというふうなことも思いながら学習発表会も見せていただいたところです。だから、そういうふうなところもかなり影響するんじゃないかなと思いました。もちろん、学習の仕方、徹底的にやるべきことはやっていくというようなことも大事でしょうけれども、そのようなこともあるのかなと思いました。

○杉浦委員 今のキーワードは、まさに就業するのに必要な力ですよ。今、企業などでも帰属意識が薄いというふうなところも問題視されていますし、自分の役割を見つけることができない若手社員が非常に多いというところなので、その辺にもすぐリンクしますね。

○葛西教育長 四日市の教育のあり方については、学調もそうですけれども、いろんな機会を捉えて継続的に節々で議論をして、さらに考え方を深めていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

○加藤委員 ほんとうに切り口はたくさんありますけど、やっぱり何をどう、事務局の考えなり、教員委員会の考え方を浸透させていくかというのは難しいですね。説得力を持ってということですね。

○葛西教育長 それでは、全体の分析につきましては、これで終わります。

各小中学校の個別の状況についても報告をお願いしたいと思いますが、学校別の成績につきましては公開しておりませんので、非公開で報告させていただきます。

また、報告終了後には、さきにお諮りしました非公開の案件となりますので、これより非公開にて行いたいと思いますので、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議ないようですので、非公開とします。